

第8波が収束しても「終息」ではない 現役医師が「勘違い」に警鐘

3/8 ディリー



国内1日あたりの新規感染者は数千人となり、新型コロナ第8波もそろそろ収束してきたと言えますが、恐ろしいのは、多くの方が、これで新型コロナが「終息」したと勘違いされていることです。

感染症の完全制圧を「終息」、社会的状況が落ち着き、ほぼ事態が収まってきた場合を「収束」とします。2類から5類への移行、マスクの自由化、行動規制の緩和。たしかに緩和されてきてはいますが「終息」したとは誰も言ってません。完全な思い違いです。

新規のウイルス感染症が終息するには、ある集団、コロナの場合は地球上の全人類の7割が抗体を持つこと、さらにインフルエンザのように、早期に投薬すればほぼ治る、そんな特効薬ができていする必要があります。承認されたばかりの「ゾコーバ」も専門家の間ではまだ半信半疑というところです。新型コロナが終息するためには人類の7割が免疫を持つ必要があり、そのためには人類の7割近くが感染もしくはワクチン接種が必要となります。

オミクロン株は、多くは無症状または軽症ですが、それらの人だけが感染して免疫を持ち、重症化しやすい人にうつさなければ理想ですが、そう都合よくはいきません。無症状で済むかどうか、かかってみないと分かりません。実際のところ、人類のほとんどの人が遅かれ早かれ一度は感染すると思っていた方がよいでしょう。ただ新型コロナの特徴は変異のスピードが速く、それも賢い変異、人の免疫の隙間をうまくすり抜けるように変異する、いわば天才ウイルスです。

第8波が収束してもそれは決して「終息」ではない、ということをもう一度頭に入れておいてください。

◆松本浩彦（まつもと・ひろひこ）芦屋市・松本クリニック院長。内科・外科をはじめ「ホーム・ドクター」家庭の総合医を実践している。同志社大学客員教授、日本臍帯プラセンタ学会会長。

